

影山班 共同研究プロジェクト

日本語レキシコンの文法的・意味的・形態的特性

1. 属性叙述チーム

→ 影山編『属性叙述の世界』くろしお出版, 2012年

2. 自他と項交替チーム

→ 2012年8月の国際シンポジウムの論文集 (De Gruyter Mouton) 予定

3. 複合動詞チーム

→ 複合動詞研究文献リスト(2012年9月, 国語研ウェブサイトで公開)

→ 2013年に論文集(ひつじ書房)予定

→ 2013年12月ごろ 国際シンポジウム(日本語史, 方言, アジア諸言語を含む)予定

→ 2013年 データベース「複合動詞レキシコン」

4. 語形成と意味・統語チーム

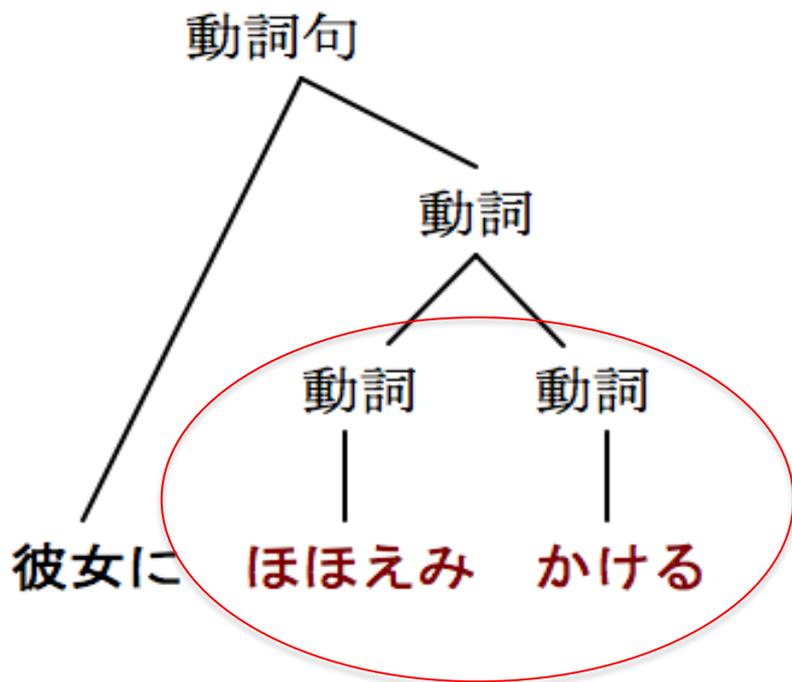
→ Handbook of Japanese Lexicon and Word Formation (De Gruyter Mouton) 予定, その他

複合動詞に関する研究課題

1. 現代標準日本語におけるV-V複合動詞(和語連用形接続)の体系化
いわゆる「語彙的」と「統語的」の関係, 複合動詞と補助動詞の関係などを含む。
→ 陳, 長谷部
2. 複合動詞の歴史的発達(特に上代, 中古, 中世)
→ 青木, 阿部
3. 複合動詞の方言変異(とくに琉球語)
4. 連用形接続の複合動詞と, テ形接続の複雑動詞との関係
5. アジア諸言語との比較における日本語複合動詞の類型論的特質
→ 塚本, 全
6. 自然言語処理 → 神崎, 山口

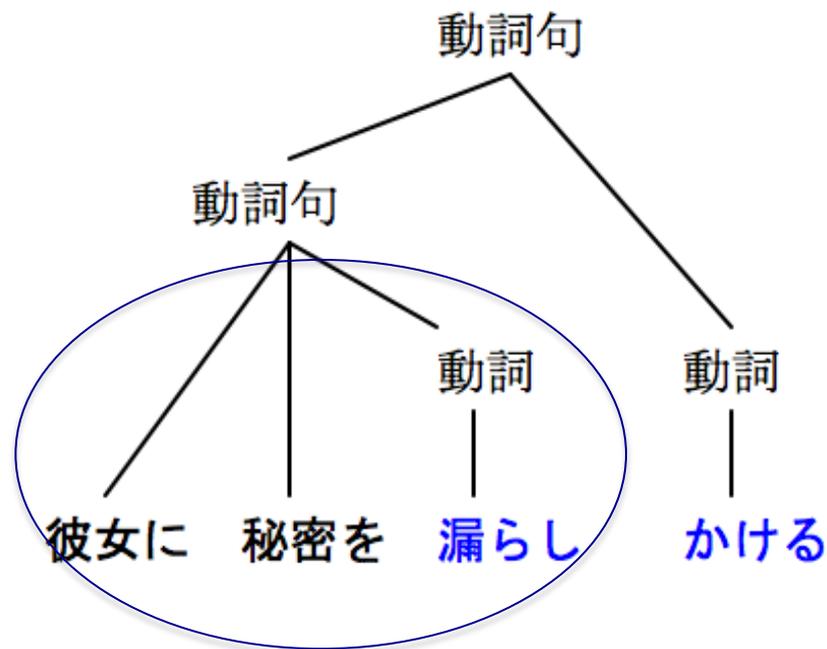
これまで想定されてきた二種類の複合動詞

語彙的複合動詞



つまり、「ほほえみかける」という動作を、彼女に対して行う

統語的複合動詞

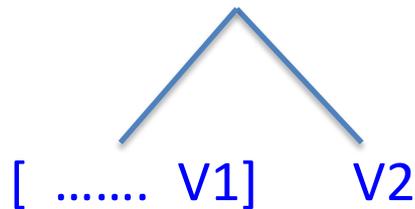


つまり、「彼女に秘密を漏らす」という動作を、もう少しでするところだった

- 「語彙的」とは
 - 後項動詞(V2)が前項動詞(V1)を直接選択(select)する。
すなわち、語彙範疇が語彙範疇と直接くっつく。
- 基本的に、前項も後項も動詞(V)の範疇を持つ。
 - 例外1:「あおむく(仰向く)」の「あお」は語源的には「仰ぐ」の語根とされる(日本国語大辞典)。
 - 例外2:「ひっつかむ」(手荒くつかむ)の「ひっ」や、「押し隠す」(ひたすら隠す)の「押し」のように接頭辞化した場合
- 前項動詞の連用形を「名詞化」とする説もあるが、それでは連濁の有無が説明しにくい。
 - 名詞＋動詞は連濁が適用可。(波立つ, 泡立つ, 泡立てる)
 - 動詞＋動詞は原則, 連濁しない。(思い立つ, 煮立つ, 埋め立てる)
- 連濁が見られる場合は, 複合名詞(立ち食い, 生け捕り→生け捕る, とがめ立て→とがめ立てる), あるいは名詞に準じるもの(連れ立って)

- 「統語的」とは

後項動詞 (V2. 補助動詞 auxiliary verb) は、前項動詞 (V1) を主要部とする句 (phrase) を選択する。



(後の段階でV1とV2が一語になると思われるが、それが通常的主要部移動(head movement, incorporation)などか、それとも別の操作なのかは未解決)

・V1を含む句には様々な統語的な要素が含まれる。

「そうし出す」、「そうなり始める」、「お休みにになりかける」、

「叱られ慣れている」、「働かせ過ぎる」、「食べてみかけた」

特に分かりやすいのは、イディオム

- 統語的V2は句を選択するから、前項はイディオムでもよい。

「仕事をさぼって、油を売る」

- 彼はまた油を売り始めた／売りまくった／
売り続けた／売りかけた／売りそこなった。

- 語彙的V2は 語彙範疇(V)を選択するから、イディオムを入れると、文字通りの意味にしかない。

#油を売り飛ばした、#油を売り渋った、#油を売り渡した、
#油を売り急いだ、#油を売りさばいた。

- 言い換えると,

語彙的複合動詞では, (V1に対して)形態的緊密性(lexical integrity)が成立する。

統語的複合動詞では, (V1に対して)形態的緊密性が成立しない。

- と言うことで,

「語彙的」対「統語的」の違いというのは, 必ずしも, 語形成が起こる部門(module)の違いと見なくてもよい。

語彙的・統語的の区別は, 主要部V2が選択する対象が, 語彙範疇か句範疇かの違い。

ただし, この違いは, いわゆる部門の違いと相当程度まで相関している。

どのようなメカニズムの理論であっても, この違いを捉えられなければ, 経験的に十分とはいえない。

今日、伝えたいこと

- 「統語的複合動詞」と呼ばれてきたもののV2は、様々な種類のアスペクトを表す補助動詞であるが、**それに近いものが、「語彙的複合動詞」の中に見られる。**
- すなわち、語彙的複合動詞には次の2つのタイプがある。
 - (1) 語彙的動詞V1＋語彙的動詞V2
 - (2) 語彙的動詞V1＋語彙的補助動詞V2

これまで、なんとなく、(1)が圧倒的に多いと考えられてきたが、実は (2)も、かなりの数にのぼる。

統語的複合動詞

補助動詞が、動詞一語ではなく、動詞句に付く。

V'

V

V

落ち

着き

払い

過ぎる

語彙的動
詞

語彙的動
詞

語彙的
補助動詞

統語的
補助動詞

語彙的複合動詞

動詞と動詞(または補助動詞)が直接結びつく。

まず、統語的複合動詞の後項(＝補助動詞)の 意味を整理すると

意味的な特徴

- 統語的複合動詞の後項は、表す意味の種類(範囲)が決まっている。

食事し**終わる** (動作の完了) ,
勉強し**始める**、仕事の途中で油を売り**始める** (動作の開始) ,
調査し**出す**、仕事の途中で油を売り**出す** (動作の開始) ,
暴露し**かける**、仕事の途中で油を売り**かける** (動作の開始) ,
研究し**続ける**、仕事の途中で油を売り**続ける** (動作の継続) ,
期待し**すぎる**、仕事の途中で油を売り**過ぎる** (動作の過剰) ,
逮捕し**そこなう**、仕事の途中で油を売り**過ぎる** (動作の不成立) ,
協力し**合う** (動作の相互作用) ,
アピールし**まくる**、仕事の途中で油を売り**まくる** (動作の多回性) ,
活用し**たおす**、仕事の途中で油を売り**たおす** (動作の徹底的実行)
苦勞し**ぬく** (動作の完遂) ,
カウントし**直す** (動作の再試行) ,
発表し**慣れる**、油を売り**慣れる** (動作の習慣化) ,
食事し**はる**、油を売り**はる** (関西方言。主語の動作に対する敬意)

これらは、いずれも、動作の在り方、動作の進め方、動作の様態
(Aktionsart アクツィオンズアルト) を表す。

テ形接続の動詞にも 同様の意味的特徴が見られる

- 尋ねてみる（動作の試行）
- 鍵があけてある（動作の結果状態）
- 教えてもらう（動作の受け取り）
- 教えてやる／あげる（動作の提供）
- だまされてしまう（意図しない動作の発生）
- 片付けておく（動作の、とりあえずの完了）
- 衰えていく／くる（話者から見た継続・進行）
- 座ってください（相手の動作の促し）

統語的な補助動詞の意味機能を整理すると。

(I) 主動詞の格関係に影響しないもの。

連用形接続

- INCEPTIVE 始動: 蒸発しだす begin to V, 到着し始める, 墜落しかける almost V, 墜落しかかる
- CONTINUATIVE 継続: 演奏し続ける continue to V
- INTENSIVE 強調: 演説しまくる V intensely
- COMPLETIVE 完了: 演奏し終える, 困惑しきる, 黙秘し通す, 考察し抜く finish V-ing, V completely
- INEFFECTIVE 未遂: 見物しそこなう fail to see the sights, 印刷し損じる fail to print, 見物しそびれる, 受諾しかねる be unable to accept, 返事し遅れる, 投函し忘れる, 印刷し残す, 判断し誤る, 返事しあぐねる
- EFFECTIVE 完遂: 逃亡しおおす succeed in V-ing, 演奏しこなす
- EXCESSIVE 過剰: 執着し過ぎる, 研究し足りない
- ITERATIVE 再試行: 演奏し直す
- HABITUATIVE 習慣: 運転しつける (*運転しつく), 運転し慣れる (*運転し慣らす)
- DEPLETIVE 枯渇: 調査し尽くす (incremental Theme), 演奏し飽きる,
- POTENTIAL 可能: 発生し得る
- LOCOMOTIVE 移動: 調査し回る, 調査し歩く
- HONORIFIC 尊敬: 買物しはる (Kansai dialect)

テ形接続

- REPETITIVE 反復: たびたび訪れている
- CONTINUATIVE 継続: ずっと寝ている
- RESULTATIVE 結果: 死んでいる
- ANTICIPATORY RESULTATIVE: 十分に休んである
- COMPLETIVE : 仕事を済ませておく
- Counter-expectation COMPLETIVE: 帰ってしまった
- EXPLORATORY: 食べてみる

(II) 主動詞の格関係に影響するもの。

- RECIPROCAL 相互行為: 非難し合う
 - INTRANSITIVIZING RESULTATIVE: Xが～である。(窓が開けてある)
- SOCIAL DEIXIS: 助けてやる, 助けてあげる, 助けてくれる, 助けてもらう (social directionality)

語彙的複合動詞にも「補助動詞」がある。

時間的アスペクト

・completive 完了

「～やむ」(降り止む) Rainfall stops.

「～あげる」(縫いあげる, 歌いあげる)

「～あがる」(縫いあがる, 干あがる)

「～詰める」(煮詰める)

「～詰まる」(煮詰まる)

・incompletive 不完全

「～さす」(言いさす)

・resultative 変化結果の強調

「～こむ」(寝こむ, 上がりこむ)

「～はてる」(困りはてる)

「～きる」(心が腐りきる, 空が澄みきる)

「～かえる」(静まりかえる, あきれかえる)

「～つく」(仕事にありつく, 住みつく, さびつく, わずらいつく)

「～あがる」(震えあがる)

「～乱れる」(花が咲き乱れる)

「～はらう」(落ち着きはらう)

・inceptive, inchoative, conative 開始ないし開始の試み

「～かかる」(殴りかかる)

「～つける」(どなりつける)

「～そめる」(明けそめる)

「～起こす」(書き起こす)

・continuative 継続

「～暮らす」=一日中続く(降り暮らす, 泣き暮らす)

「～しきる」(降りしきる)

・iterative 反復, habitative 習慣

「～返す」(ほじくり返す)

「～こむ」(使いこむ)

「～習わす」(言い習わす)

「～替える」(建て替える)

「～継ぐ」(語り継ぐ)

・intensive 動作の強調

「～たてる」(さわぎたてる, はやしたてる)

「～おろす」(こきおろす)

「～まわす」(いじくりまわす, こねまわす)

「～かえる」(沸きかえる)

「～たつ」(沸きたつ)

「～ちぎる」(褒めちぎる)

・ineffective 行為の不成立

「～違える」(履き違える)

「～しぶる」(貸ししぶる)

「～悩む」(伸び悩む)

「～あぐねる」(探しあぐねる)

「～違う」(聞き違う)

▪reciprocal複数事象の相互関係

- 「～あう」(抱きあう, 溶けあう, 示しあう)
- 「～あわせる」(誘いあわせる, 居あわせる)
- 「～かえる」(電車を乗りかえる, 靴を履きかえる)
- 「～かえす」(押しかえす, 聞きかえす)
- 「～結ぶ」(斬り結ぶ)
- 「～分ける」(使い分ける, 書き分ける)

空間的なアスペクト(事象の展開のしかたを空間(移動)の観点から表現する)

- 「～あげる」(見あげる)
- 「～おろす」(見下ろす)
- 「～まわす」(見まわす, なめまわす)
- 「～わたる」(晴れわたる, 鳴りわたる)
- 「～まわる」(嗅ぎまわる)

▪ingressive

- 「～込む」(考え込む)

▪egressive

- 「～つける」(叱りつける)
- 「～出す」(飛び出す)

社会的(人称的)なアスペクト(事象の展開のしかたを, 主語と相手との上下関係の観点から表現する)

- 「～あげる」(祭りあげる, 存じあげる, 政府が民間から借りあげる)
- 「～さげる」(政府が民間に貸しさげる)
- 「～くださす」(見くださす)
- 「～つける／つかる」(申しつける, 申しつかる)
- 「～やる」(思いやる)

そして、語彙的な補助動詞も同様の意味的特徴

語彙アスペクト

(Aktionsart アクツィオンズアルト＝動作の様態, 動作の方式)

完了・未完了といった時間的なアスペクトに限らず,
広く**事象の展開の仕方**を表す。

- 1) 動詞が表す事象の完成に至る時間的な段階あるいは完成したあとの状態(開始, 継続, 進行, 終了, 変化結果, 不達成など)
- 2) 動詞が表す事象の強度や程度, 複数事象の同時発生など(一回性, 多回性, 再度性, 強調, 縮小, 集中性, 相互など)

これらの意味は, 先に見た統語的複合動詞と かなりの程度に共通する。

語彙的複合動詞の二分類

従来の意味分類(影山, 松本, 由本など)

- 1. 手段 : V1することによって, V2**
突き落とす, 切り倒す, 踏みつぶす, 押し開ける
- 2. 様態 : V1しながらV2**
流れ着く, 転げ落ちる, 忍び寄る, 舞い降りる
- 3. 原因 : V1の結果, V2**
歩き疲れる, 抜け落ちる, 焼け死ぬ
- 4. 並列 : V1かつV2**
忌み嫌う, 恋い慕う, 慣れ親しむ

- 5. 補文関係 : V1という行為/出来事を(が) V2**
聞き逃す, 編み上がる, 死に急ぐ
- 6. 副詞的 : V2が副詞的にV1の意味を補強**
晴れ渡る(=すっかり晴れる), 使い果たす(=全部使う), 居合わせる(=たまたま同じ場所にいる)

新しい分類

主題関係複合動詞

(thematic compound verbs)

V1(前項)もV2(後項)も主語・目的語の主題関係(意味役割)を述べる(つまり、V1、V2ともに LCSを持つ)。V1はV2を手段、様態、原因などの意味関係で修飾する(あるいはV1とV2が並列関係にある)。

アスペクト複合動詞

(aspectual compound verbs)

文の主題関係(意味役割)は基本的にV1によって決まる。V2は広い意味で語彙的アスペクト(アクションスアルト)を表し、V1が表す事象の展開について述べる。

1. 主題関係複合動詞(V + V)

前項が後項を意味的に修飾する（従来は手段・様態・原因などに分類）。

複合動詞全体の意味は容易に解釈できる。

前項と後項の組み合わせ制限も比較的弱く、生産性がある。

数は、語彙的複合動詞全体の約60%と見込まれる。

[例]「たたきつぶす, 踏みつぶす, 押しつぶす」はいずれも, V2(つぶす)のやり方を表す。

2. アスペクト複合動詞(V + L-asp) L-asp = lexical aspect, 語彙的補助動詞

後項は何らかの意味で前項の意味を補足する。（従来は補文関係および副詞的關係として分類。）

後項動詞の意味が、本来の意味と異なることが多く、その結果、複合動詞全体の意味解釈が特殊になりやすく、生産性が制限される。

数は、語彙的複合動詞全体の約30%と見込まれる。

[例]「静まりかえる」「あきれかえる」はV2(かえる)のやり方ではなく、V1(静まる, あきれる)の度合いを表す。

- 見分け方

(1) V2が本来の概念的意味を持ち、文全体の格関係を支配するなら、
主題関係

[例] 玄関先に車を**乗り付ける**。
やくざが隣家に**殴り込む**。

* * *

V1が接頭辞化している場合も、主題関係の一種。

[例] **押し**隠す = ひたすら隠す
打ち寄せる = 大量に寄せて来る

(2) 「V1することが／をV2」のように言い替えられるなら、補助動詞。

[例] 雨が降り**止む**。 = 雨が降るのが止む。
そう言い**習わしている**。 = そう言うのが習わしである。

(3) V2が、V1の動作を修飾するように言い換えられるなら、補助動詞。

[例] 書き**殴る** = 殴るように(荒っぽく)書く
書き**下す** = 上から下に書く

伝えたい主題関係(「誰が何をどうする」という格関係を表す意味)の重点は V1? それとも, V2?

1. 主題関係複合動詞 —— V2に重点

- ・踏みつぶしたんですね? はい, つぶしました。
- ・鍵をこじ開けたのですか? はい, なんとか開けました。
- ・カバンから辞書を取り出したんですね? はい, 出しました。

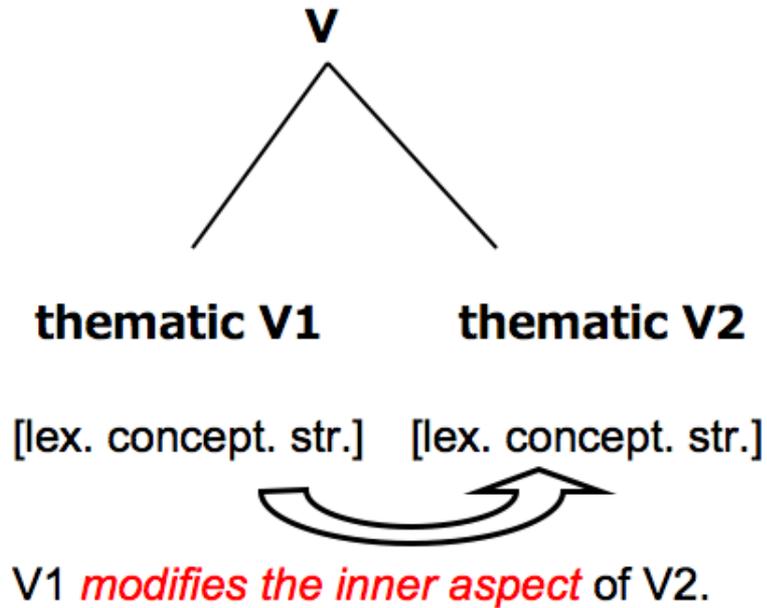
2. アスペクト複合動詞 —— V1に重点

- ・あきれかえりましたねえ? *はい, かえりました。
- ・ほめちぎりましたか? *はい, ちぎりました。
- ・ワニが檻から逃げ出したんですね? *はい, 出しました。

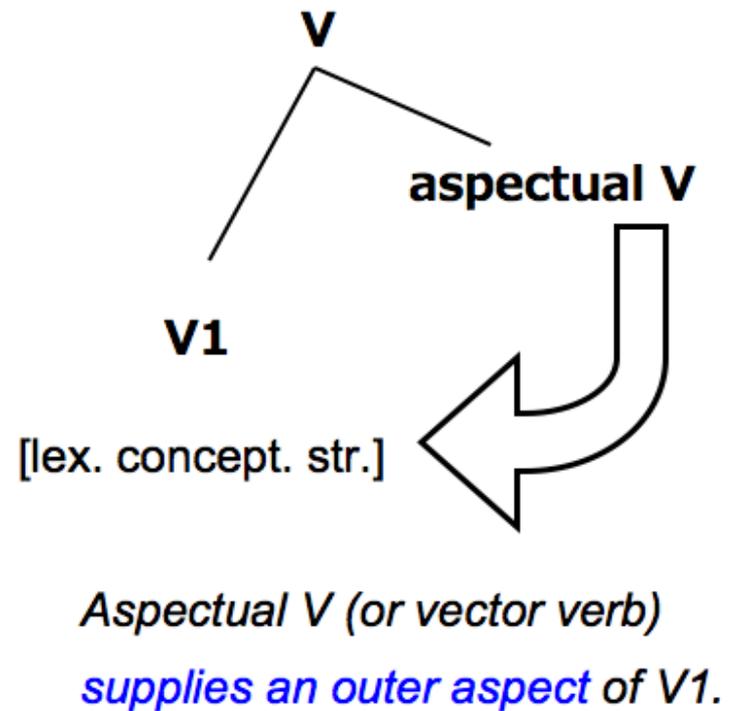
[注] これはあくまで判断の目安。すべての例が, これで自動的に判断できるわけではない。

V1とV2の意味的な修飾関係

主題関係複合動詞



アスペクト複合動詞



同じ後項でも、2種類に分かれることがある(多義性)

- 残る

主題関係 **生き残る** (生きたまま, 残る。survive)

アスペクト **売れ残る** (売れずに残る 'remain unsold' = 「売れるという事象が未達成である」)

- つける

主題関係 壁にポスターを**貼りつける**

アスペクト 子供を**しかりつける**

◎タイプによって、格関係も違う。

主題関係複合動詞は基本的に、V2が格関係を支配。

「付ける」=xがyをzに 「貼り付ける／産み付ける」=xがyをzに

他方、アスペクト複合動詞は、基本的にV1が支配。

「叱る／どなる」=xがyを 「叱りつける／どなりつける」=xがyを

語彙的な補助動詞 (L-asp) の特徴

- a) 語彙的補助動詞は、V1 (前項) の概念的意味に対して何らかの語彙的アスペクトの意味を添加する。
[例]「空が晴れ渡る」は「空が渡る」ではなく、「空が晴れる」という事象が「すべての空間に及ぶ」という意味。
- b) 語彙的補助動詞は、単独で用いられたときの動詞と意味が異なる。
[例] 呆れはてる, 晴れ渡る, 思い過ごす, 待ちわびる, 褒めちぎる
- c) 語彙的補助動詞は、限られた前項動詞(V1)としか結びつかない。(その点で、統語的な補助動詞(「始める, かける」など)が自由度が高いことと対照的。)
[例] 現代語では「～わびる」は「待つ」としか結合しない。「～しきる」は「降る」あるいは「鳴く」としか結合しない。
- d) 語彙的補助動詞は、現代日本語では単独で使われないものがある。
[例] 降りしきる, 決めあぐねる, 言いふらす, 着古す, 呼び習わす, 黙りこくる, 眠りこける
- e) 語彙的補助動詞) は、動詞としての活用パラダイムが不完全なものがある。
[例] 興奮がさめやらぬ間に, 待ちきれない(*待ちきれる)
- f) 語彙的補助動詞は多様で予測しにくい意味を持つため、幼児や外国人学習者は習得に時間がかかると思われる。また、成人でも意味が正確につかめず誤用が起こりやすい。
[例] 煮詰まる(本来は「議論が出尽くして、結論に近づく」という意味だが、最近では「行き詰まって、結論が出ない／先の見通しが立たない」という意味で使われることが増えてきた。)

主題関係複合動詞とアスペクト複合動詞の違いは、古くからあったのではないかと推測される。
百人一首からの例

- [12] 天つ風雲の通ひ路**吹きとぢよ** 乙女の姿しばしとどめむ (僧正遍昭, 平安時代)
「そら吹く風よ。舞姫が天上と地上とを行き交う雲の道を**吹いて**, **閉じて**くれ。この美しい天女たちの姿をもう少しとどめておきたいと思うから」 **主題関係**
- [41] 恋すてふわが名はまだき立ちにけり 人知れずこそ**思ひそめしか** (壬生忠見, 平安時代) 「恋をしているという評判がもう早や世間にひろまった。誰にも知られないようにひそかに心のうちだけで**思いはじめた**ばかりなのに」 **アスペクト(時間的な開始)**
- [57] **めぐり逢ひ**て見しやそれとも分かぬ間に 雲隠れにし夜半の月かな (紫式部)
「**思いがけなく出会った**のに, 見たのは月であったのかそれすら分からないうちに雲隠れした夜半の月 (あなたはそれと同じくらいあつというまに帰ってしまいましたね)」 **主題関係**
- [67] 朝ぼらけ宇治の川霧たえだえに **あらはれわたる**瀬々の網代木 (権中納言定頼, 平安時代) 「冬の夜が白々と明けるころ、宇治川の川面に立ち込めた朝霧が途切れ途切れになりその間に川瀬の網代木が**つぎつぎと(あちこちに)現れている**」 **アスペクト(空間的なひろがり)**
- [76] わたの原**漕ぎ出**でて見ればひさかたの 雲居にまがふ沖つ白波 (法性寺入道前関白太政大臣, 平安時代) 「広々とした海上に船を**こぎ出して**はるかかなたをながめると、雲と見違えるばかりに白波が立っている」 **主題関係**
- [79] 秋風にたなびく雲のたえ間より **漏れ出づる**月の影のさやけさ (左京大夫顕輔, 平安時代) 「秋風にたなびいている雲の切れ間から**もれて出てくる**月の光のなんという澄み切った明るさだろう」 **主題関係**
- [88] 難波江の蘆のかりねのひとよゆゑ 身を尽くしてや**恋ひわたる**べき (皇嘉門院別当) 「難波の入り江の蘆 (あし) の刈り根の一節のような短い一夜の契りのために生涯を尽くして**恋い続ける**ことになるのでしょうか」 **アスペクト(時間的な継続)**

創造的語形成(creative word formation)としての補助動詞化

- ・生産的(productive)な語形成 --- 主題関係複合動詞は, これに該当する。

語形成の規則(rule)によって, 規則的・生産的に語が作り出される。

[例] coat pocket, hip pocket, air pocket

- ・創造的(creative)な語形成 --- アスペクト複合動詞は, これに該当する。

生産的な規則に見られる法則性から逸脱しても, 母語話者がメタファーなどの創造力を用いて, 新しいことばを創出する。[例] pickpocket

(Lyons 1977, Bauer 2001, Kageyama 2010など)

- ・ 補助動詞が表す語彙的アスペクトの意味は普遍的にほぼ一定範囲内にある。
したがって、ひとつひとつの補助動詞が個別に意味の希薄化をうけて文法化していくとは考えにくい。もしそうなら、補助動詞の意味範囲は無秩序になってしまうはずだ。そうではなく、語彙的アスペクト（アクツィオンズアルト）の範囲は人間言語に共通しており、その基本的な意味概念に適合する動詞を、母語話者が創造力(creativity)を働かせて選び出す。その際、話者の修辭的な発想が活かされる。

たとえば,

- ・頻度・継続性を表すなら、「雨が降りしきる」や「雨が降り暮らす」

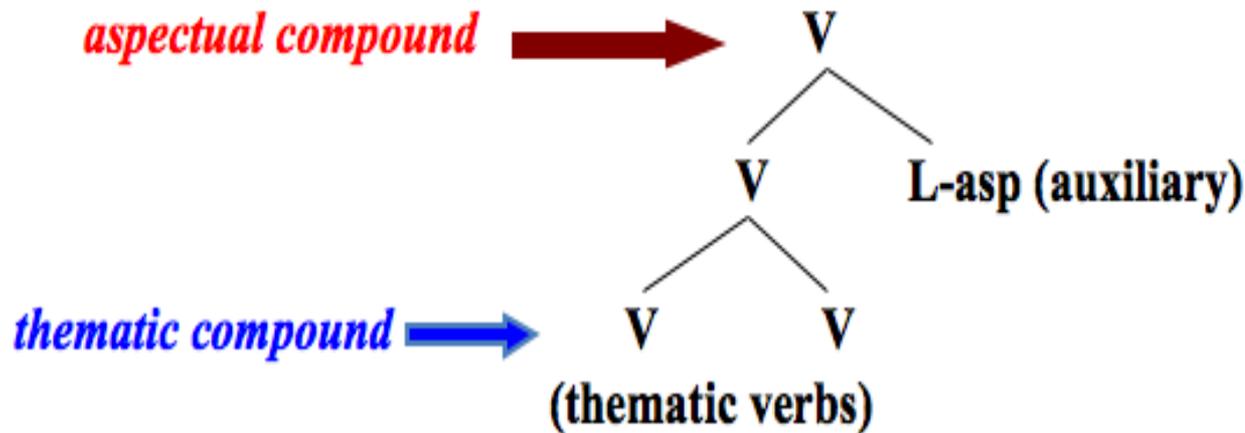
- ・不達成(期待通りに進まない)を表すなら、「成績が伸び悩む」

- ・豊富な結果を強調するなら、「花が咲き乱れる」「咲きこぼれる」

形態構造

主題関係複合動詞とアスペクト複合動詞の違いは意味だけでなく、形態構造でも異なる。

主題関係複合動詞とアスペクト複合動詞は、どちらも「語彙的」な複合動詞であるが、その構造は、主題関係が下、アスペクトが上に現れるという階層的な仕組みになっている。



統語的複合動詞では、複数の統語的な補助動詞が複数個、階層的に現れるが、それより下に(つまり形態構造のレベルで)語彙的な補助動詞が現れ、さらに下に主題関係複合動詞がある。

(1) 構造の重層性

- 統語的複合動詞は複数個 つらねることができる。
見物し - 始め - そこね - 得る
- しかし語彙的複合動詞は通常, 2つの動詞だけで構成される。
 - a. たたき落とす + 蹴り落とす → *たたき - 蹴り - 落とす
 - a. たたき落とす + たたきつぶす → *たたき - 落とし - つぶす

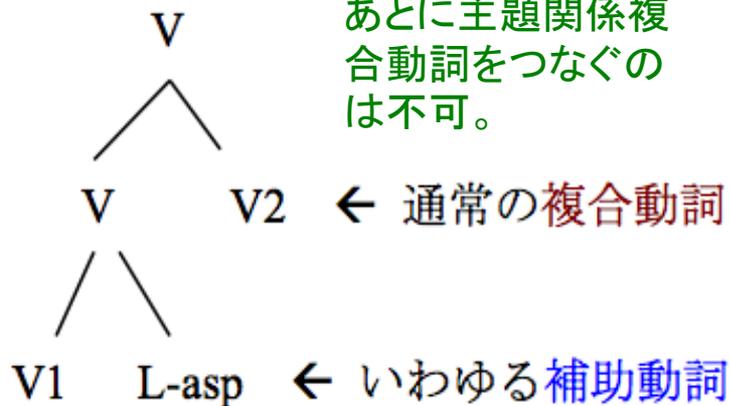
しかしながら、主題関係複合動詞 (V+V) + 補助動詞 (V) という組み立てなら、3つの動詞の連続であっても許される。

[例] 開会のファンファーレが 鳴り-響き-渡った。これと比較: * 鳴り-渡り-響く
ファンが歌手を 追い-かけ-回す。 比較: * 追い-回し-かける

2種類の複合動詞の階層関係(主題関係が下, アスペクトが上)

a. 可能性 1

アスペクト複合動詞を先に出して, そのあとに主題関係複合動詞をつなぐのは不可。



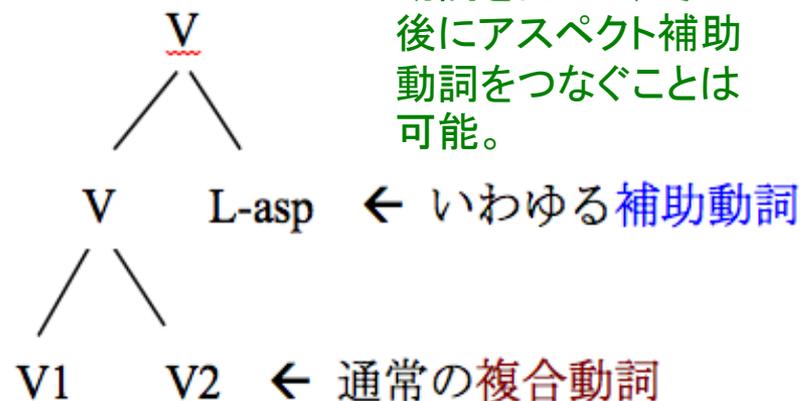
可能性1は, 理論的に「あり得ない」と予想される。

語彙範疇(V1)―機能範疇(L-asp)―語彙範疇(V2)

- ・干あがる(V + L-asp), 干からびる(V + V)
 → *干 - あがり - からびる(V + L-asp + V)
 (からびる/からぶ=乾くこと)
- ・寝静まる(V + V), 静まりかえる(V + L-asp)
 → *寝 - かえり - 静まる (V + L-asp + V)

b. 可能性 2

先に主題関係複合動詞を出して, その後アスペクト補助動詞をつなぐことは可能。



可能性2は, 理論的に「あり得る」と予想される。

語彙範疇(V1)―語彙範疇(V2)―機能範疇(L-asp)

- ・干あがる(V + L-asp), 干からびる(V + V)
 → 干 - からび - あがる (V + V + L-asp)
- ・寝静まる(V+V), 静まりかえる(V+L-asp)
 → 寝 - 静まり - かえる (V + V + L-asp)

追い-かけ-回す, ひね-くり-回す
 落ち-着き-払う

(2) 動詞反復形

「V-にV」型の動詞反復(または, 動詞重複 reduplication)

- ・待ちに待った連休
- ・決勝戦で, スタジアムは沸きに沸いた。

◎統語的複合動詞では可能(影山 1993)

- ・遊びに遊びまくった。
- ・鍛えに鍛え抜かれた身体

◎他方, 語彙的複合動詞では, 通常, 許されない。

- ドアを押し開けた。
→ *ドアを押しに押し開けた。
- 東日本大震災の被災地から太平洋を越えてカナダ西海岸の島に流れ着いた大型バイク。
→ *流れに流れ着いた大型バイク

しかし、「語彙的」な複合動詞でも前項に動詞重複が可能な場合が見られる。(ただし、これはすべてに適用するわけではない。継続性アスペクトなど意味的な性質の不整合のために成立しないこともある。)

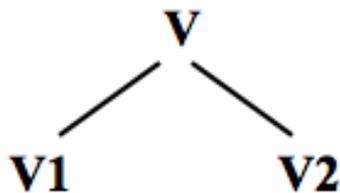
a. 主題関係複合動詞

(主語の物理的な移動)

急いで医務室に駆け込んだ／走り込んだ。

(「込む」は物理的な移動)

→ * 医務室に駆けに駆け込んだ
／走りに走り込んだ。



*reduplication

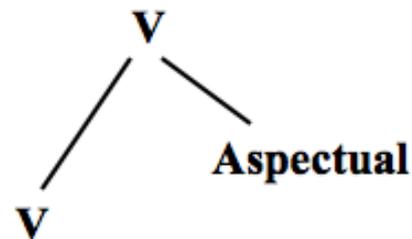
b. アスペクト複合動詞

(動作の繰り返し)

大会を目前にして、選手達は走り込んだ。

→ 大会を目前にして選手達は走りに走り込んだ。

(練習を重ねたという意味)



reduplication

インターネットからの実例

込む

- ・OKを引き出すまで、とにかく頼みに頼み込んだ。
- ・使いに使い込んだバッグ
- ・ヤバイ... このままでは、老けに老け込む...。何とか打開したい。

詰める

- ・ギタリストとして、上りに上り詰めて、

付く

- ・絡みに絡み付いた猫の毛

立てる

- ・マスコミが騒ぎに騒ぎたてた衆院選の結末は...

立つ

- ・一億全国民が沸きに沸き立った年

こける

- ・昨日は死んでるか如くに眠りに眠りこけていました。

わたる

- ・お酒には酔っていた。だけど、頭は冴えに冴えわたって

誇る

- ・鉄砲百合も咲きに咲き誇って...

乱れる

- ・薄ピンク色の花が大満開で咲きに咲き乱れている。

狂う

- ・彼らは怒りに怒り狂って...

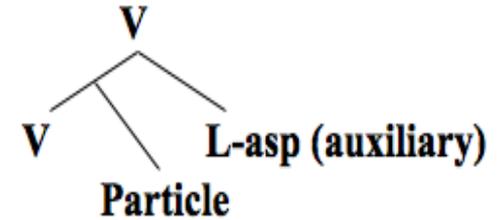
返る

- ・会場は最後まで沸きに沸き返った。

上げる

- ・練りに練り上げた当店自慢の『秘伝のつけダレ』

(3) 助詞の介在



- ・見も知らずの人，引きも切らず，取りも直さず，思いもよらず
旧(もと)の木は 生(おい)や茂れる枝はなお 影をやなせる... (島崎藤村作詞「椰子の実」)

先行研究の例を見たところ，多くの場合，助詞が挿入されているのはアスペクト補助動詞の前のものである。ただし，青木(本日の発表会)によると，主題関係の場合でも，「射や殺す」のように助詞介入が観察される。

- ・山川に風のかけたるしがらみは 流れもあへぬ紅葉なりけり(百人一首，春道列樹，平安前期)
(流れきれない)
- ・吉澤典男(1952)「複合動詞について」(『日本文学論究』10: 32-42)
「恋ひ渡る」 慰もる心は無しに斯くのみし恋ひや渡らむ月に日にけに (万葉集・巻十一)
「恋ひ暮らす」 朝戸出の君が容儀(すがた)をよく見ずて長き春日を恋ひや暮さむ(万葉集・巻十)
「朽ちはつ」 思へどもいはでの山に年を経て朽ちやはてなむ谷の埋れ木 (千載和歌集・巻十一)
- ・Bjarke Frellesvig et al. (2010) “Verb Semantics and Argument Realization in Pre-modern Japanese: A Preliminary Study of Compound Verbs in Old Japanese,” *Gengo Kenkyu* 138.

Verb+Particle+Auxiliary in 『万葉集』

おもひもかね，おもひしまさる，おもひもすぎ，おもひもつく，おもひそやけ，おもひはやむ，
おもひやゆく

以上から分かること。

- (1) 主題関係複合動詞とアスペクト複合動詞の区別は、単に、従来の語彙的複合動詞を2つに整理しただけではない。
- (2) 両者を連結する場合は、**主題関係＋アスペクト**という順番になり、その逆(アスペクト＋主題関係という順番)にはならない。
- (3) どちらが前で、どちらが後ろかという左右の順序は、上下の階層関係で言うと、「**主題関係が下、アスペクトはその上**」という構造になる。
- (4) これは、語彙的な複合動詞の後に(構造で言うと、「その上に」)、統語的な補助動詞が付くのと同一ことである(たとえば、[[[[[取り出し]-始め]-かけ]-損ねる]のように)。
- (5) 語彙的な**アスペクト複合動詞**は、統語的な補助動詞ほどではないが、**内部の結びつき方**が、主題関係複合動詞のV1とV2の結びつきに比べると、**比較的緩やかな**ようである。(たとえば、動詞反復形や助詞介在を許す。)

語彙的複合動詞の雛形



ここまでのまとめ

同じ形態の動詞が3通りの多義性を持つこともある。

1. 統語的な補助動詞

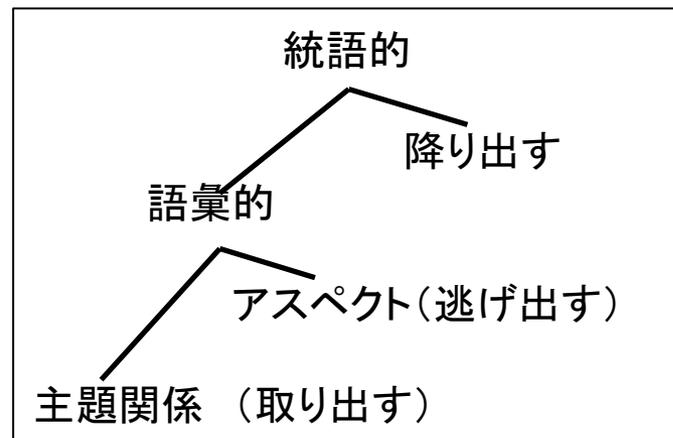
- a. 私は飛行機に**乗り**付けない。
- b. 急に雨が**降り**出した。

2. 語彙的な補助動詞

- a. レストランにタクシーで**乗り**付けた。
- b. 熊が檻から**逃げ**出した。

3. 語彙的な主題関係複合動詞

- a. 玄関先にタクシーを**乗り**付けた。
- b. 彼はカバンから辞書を**取り**出した。



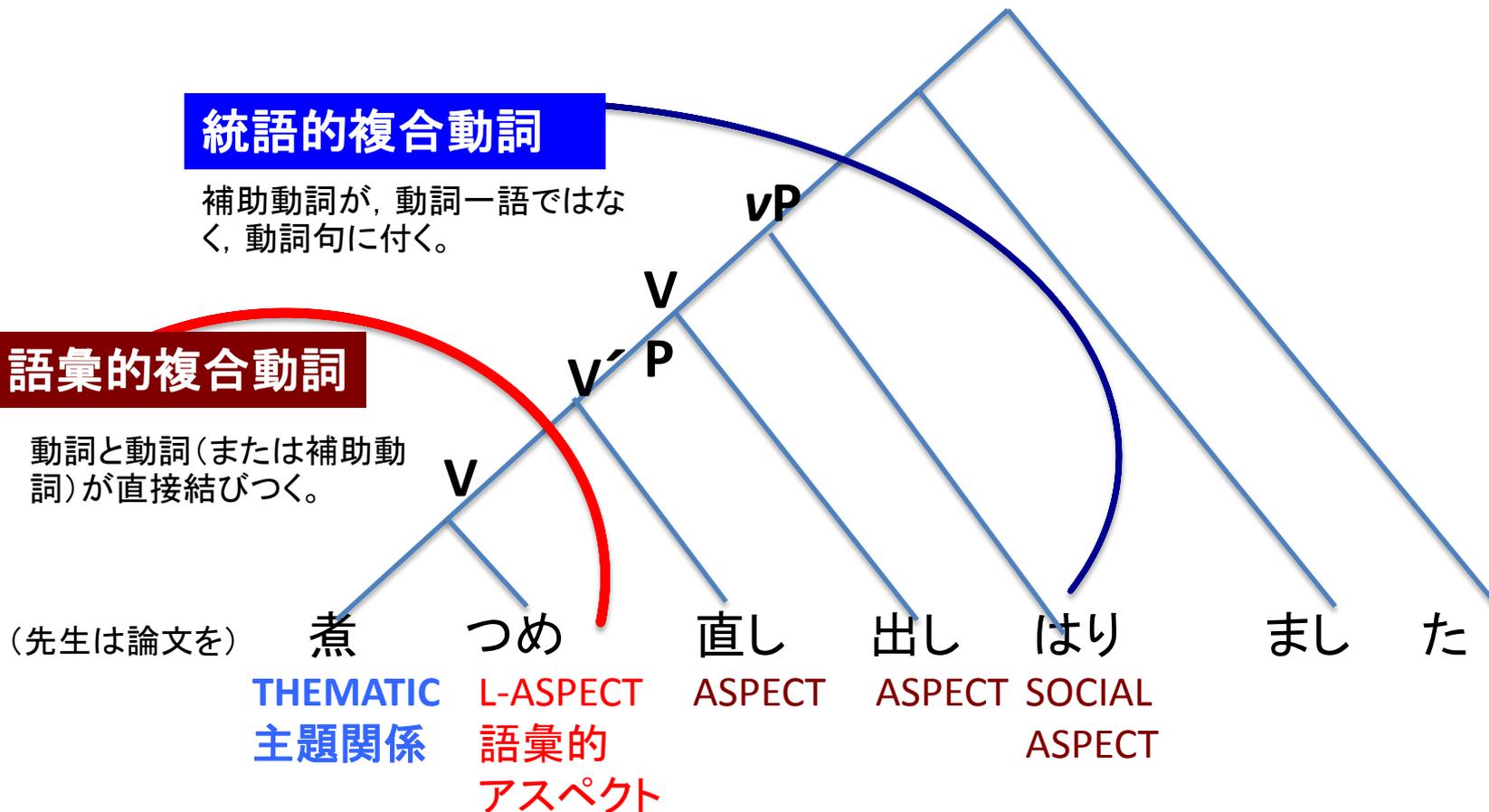
形態構造と統語構造は、次のように**構造的に連続**している。

統語的複合動詞

補助動詞が、動詞一語ではなく、動詞句に付く。

語彙的複合動詞

動詞と動詞(または補助動詞)が直接結びつく。



もう一度，構造で整理すると，

- 「語彙的」は，一語(V2)が直接，別の一語(V1)を選択するから，VとV，あるいはVとL-aspが直接複合する。

主題関係：玄関にタクシーを **[[乗り]_V [付け]_V]-た**

アスペクト：レストランにタクシー**で [[乗り]_V [付け]_{L-asp}]-た**

- 「統語的」は，V2が，V1を主要部とする句を選択する。

私は [飛行機に **乗り]_{VP} [つけ]_{AUX} ない。**

複合動詞の歴史的成立について

金田一春彦(1953)「国語アクセント史の研究が何に役立つか」

- ・上代語には現在のようなV+V型複合動詞は存在せず、複合動詞と見えるものは、単に2つの動詞が連続するだけであった。

<金田一の根拠1>

日本語アクセントの歴史的研究の意義「類聚名義抄」---平安末期(11c.末から12c.)に書かれた京都方言のアクセント資料によると、

2つの動詞は、全体でひとつのアクセントの山にならず、前項・後項それぞれが 独自のアクセントで記載されている。

ヒキキル(率いる) 上平上平 Hikiru
セメトル(攻め取る) 平上平上 seMEtoRU

しかし、新田哲夫(2010)「石川県白峰方言の複合動詞アクセント」(『日本語研究の12章』明治書院)によると

この白峰方言では、前項と後項のモーラ数によって違いはあるが、次のように、現代語でも前項と後項がそれぞれのアクセントで発音されるパターンがある。

例 洗い流す ARAiNAgasu (HHLMML) 歩き回る ARUkiMAWAru (MHLMML)
腫れ上がる HAreAGARu (HLMML)

- ・新田論文は、語彙的・統語的の区別や、複合動詞と補助動詞の区別はせず、モーラ数だけで調査(これは、日本語のアクセント研究では普通のやり方)。
- ・白峰方言の複合動詞は、アクセントは古代語の方式を残していても、文法的・意味的性質は標準語の複合動詞と同じであり、話者はこれらを2動詞の連続とは捉えていない。したがって、アクセントの型だけで、一語か二語かを定めることはできない。

<金田一の根拠2>

2つの動詞の間に、助詞が入ることがある。

「咲きや初むらん」（咲き始める）、「降りぞまされる」（たくさん降る）

これは、形態的緊密性に違反している（つまり、語になっていない）ように見える。

しかし、先に述べたように、ほとんどの場合、助詞が挿入されているのはアスペクト補助動詞の前のである。

- ・山川に風のかけたるしがらみは 流れもあへぬ紅葉なりけり（百人一首，春道列樹，平安前期）
（流れきれない）
- ・吉澤典男(1952)「複合動詞について」(『日本文学論究』10: 32-42)
「恋ひ渡る」 慰もる心は無しに斯くのみし恋ひや渡らむ月に日にけに（万葉集・卷十一）
「恋ひ暮らす」朝戸出の君が容儀(すがた)をよく見ずて長き春日を恋ひや暮さむ（万葉集・卷十）
「朽ちはつ」 思へどもいはでの山に年を経て朽ちやはてなむ谷の埋れ木（千載和歌集・卷十一）
- ・Bjarke Frellesvig et al. (2010) “Verb Semantics and Argument Realization in Pre-modern Japanese: A Preliminary Study of Compound Verbs in Old Japanese,” *Gengo Kenkyu* 138.

Verb+Particle+Auxiliary in 『万葉集』

おもひもかね, おもひしまさる, おもひもすぎ, おもひもつく, おもひそやけ, おもひはやむ,
おもひやゆく

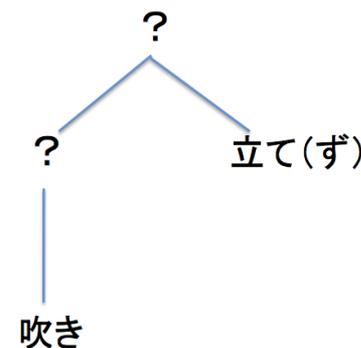
- ・ そうすると、助詞挿入は、アスペクト複合動詞の形態構造の特異性に原因があるかも知れない。したがって、助詞挿入があるからといって、一語になっていないとは断定できない。
- ・ 逆に、単なる2動詞の連続であるという説は、たとえば否定のスコープ（作用域）などを説明できない。

次の例で、否定の「ず」は、前の2動詞全体を否定する。後ろの動詞だけを否定するという解釈は成り立たない。

a. かまどには ほけふきたてず
 （かまどには、火気吹き立てず） 『万葉集』巻5

b. いまさけるごとちりすぎず
 （今咲ける如 散り過ぎず） 散り終わらない 『万葉集』巻5

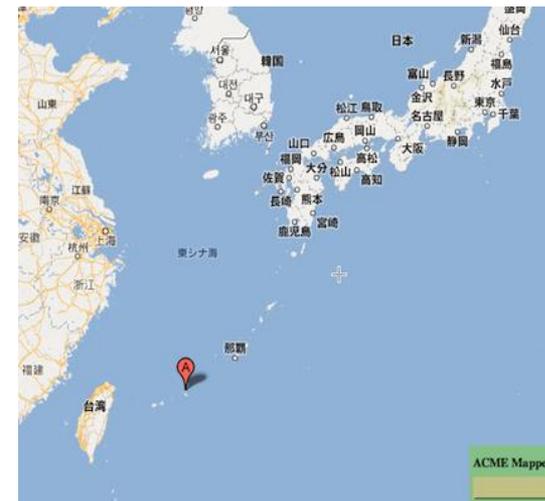
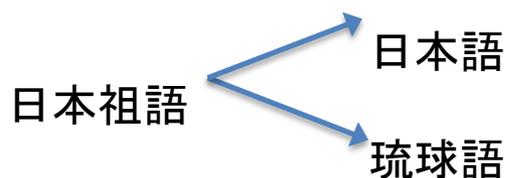
c. いやなつかしくきけどあきたらず
 （弥懐しく飽き足らず） 『万葉集』巻19



琉球語(琉球方言)からの示唆

ひとつの有力な説

琉球語は、直接、日本語から枝分かれをしたのではなく、日本語と琉球語の両方の源となる日本祖語(proto Japanic)があり、そこから分かれてきた。



もしこの説が正しいとすると、現在の琉球語に複合動詞があるかどうかを調べれば、金田一説を検証する手がかりになり得る。

- Michinori Shimoji and Thomas Pellard (2010) *An Introduction to Ryukyuan Languages*. 東京外大

- 大神島(宮古列島のひとつの島)の複合動詞

V-pakumi 「～始める」

pakumiは形の上では他動詞であるが、複合動詞の後項としては、Vの格関係に影響を与えない。Vとpakumiの間には、助詞などが挿入できない。

(ただし、これが語彙的なのか統語的なのかは不明。おそらく統語的か。)

これに対して、標準日本語のテ形接続の補助動詞にあたると思われるものも存在する。

-ur (< (animate) 'be') imperfective

ar (< (inanimate) 'be') resultative

usk < 'put' preparative

